

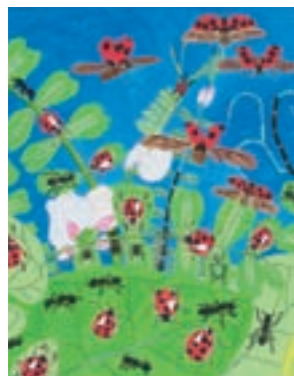
2012

社会・環境報告書

SOCIAL AND ENVIRONMENTAL REPORT

表紙の絵について

本報告書の表紙絵は、障がい者ライブラリー「アートビリティ」に登録されている、戸町 宏二さんの作品「ありとてんとうむし」を使用させていただきました。



●アートビリティ

社会福祉法人東京コロニーが、障がい者アーティストの自立・自活支援を目的に設立したアートギャラリー。作品の使用料がアーティストに還元されています。

戸町 宏二(とがり こうじ)

1989年生まれ。愛知県在住。
キラキラとアートコンクール第1回～第6回優秀賞受賞。
その後2009年11月、アートビリティ登録作家となる。
動物や生き物を緻密で繊細なタッチで描きながら、どこことなくユーモアが漂う不思議な魅力にあふれた作品が特徴。
2007年、障害者雇用支援月間ポスター・厚生労働大臣賞受賞。
2010年、第22回アートビリティ大賞アサヒビール奨励賞受賞。
企業カレンダー、冊子の表紙など様々なメディアで活躍している。

お問い合わせ先

綜研化学株式会社

経営管理部、安全環境・品質保証室

〒171-8531 東京都豊島区高田三丁目29番5号

TEL.03-3983-3171 FAX. 03-3988-9216

URL : <http://www.soken-ce.co.jp>

e-mail : soken@soken-ce.co.jp



この社会・環境報告書には、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物性インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じくVOCを大幅に低減する水なし印刷が採用されております。



はじめに

綜研化学グループは、地球環境の負荷低減のために、あらゆる事業活動で地球温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めています。

同時に、企業としての社会的責任を担うべく、法令を遵守し、内部統制システムを充実させ、社会貢献を行うことなどで、社会の公器にふさわしい企業体質の構築につとめています。

本報告書において、その進捗状況をステークホルダーの皆様にご報告するとともに、自らの反省材料とし、今後の取り組みへの糧としていきたいと考えております。

■ 対象範囲と期間

本報告書は、綜研化学グループ国内各サイト(東京本社・狭山・浜岡・綜研テクニクス)の活動状況を掲載しています。

実績データは、2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)を対象として掲載し、取り組み内容・体制などは発行日時点(2012年9月)のものを掲載しています。

■ ガイドライン

本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2007年度版」のガイドラインを参考にしています。



トップメッセージ

当社グループは、独自技術により開発した製品の提供を通じて社会に貢献すべく、事業活動を行ってまいりました。また、事業活動を行う上で安全、環境に配慮するとともに、コンプライアンスの推進、地域貢献活動にも積極的に取り組んでまいりました。

2011年度は、東日本大震災の甚大な被害からの復興、原子力発電所の事故を発端とする電力供給不足等への対応等を契機に、企業の社会的責任を果たしていく上で、危機管理、安全確保、地域との共生等の重要性を再認識する1年でありました。

当社グループのモノづくりの拠点である狭山事業所と浜岡事業所は、2009年8月の駿河湾沖地震を教訓として災害への対策など不測の事態に対する安全対策等の危機管理マニュアルを整備していましたが、東日本大震災を踏まえて内容を見直しました。

当社は化学品などの危険物を扱っているため、安全確保、環境保全に努めることは、事業活動を行う上での大前提であり、安全は全ての業務に優先するという認識の下、常日頃より精力的に取り組んでおります。また、当社の事業は地域社会のご理解の下に成り立っているとの認識の下、安全、環境に対する取り組みに加え、社会貢献活動にも取り組み、善良な企業市民として地域との共生に努めております。2011年度は、地域の皆様に当社の事業活動についてご理解を深めて

いただけるよう、地域に開かれた事業所を目指し、これらの取り組みについて積極的に情報発信することにも注力いたしました。本報告書におきましても、地域に開かれた事業所を目指した取り組み等の特集ページでご紹介しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今後とも、ステークホルダーの皆様からの信頼と期待にお応えすべく努力してまいりますので、一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
逢坂 紀行

目次

はじめに	1	環境的側面	17~25
トップメッセージ	2	環境負荷低減のための活動	17
経営理念・事業内容・会社概要	3~4	環境計画	18
特集 地域に開かれた事業所を目指して	5	環境マネジメントシステム	19
コーポレート・ガバナンス	9	環境配慮型製品	20
社会的側面	11~16	地球温暖化防止	21
お客様・取引先の皆様とともに	11	化学物質による汚染防止および環境リスク低減	22
株主・投資家の皆様とともに	12	廃棄物削減・資源循環の推進	23
従業員とともに	13	サイトデータ	24
地域の皆様とともに	15	第三者意見	26

経営理念

1. 私たちは常に誠実であるとともに、創造と工夫に情熱と責任を持って挑戦
2. 地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します。
3. お客様には心からの満足を、株主の方々には共感を、そして私たちは働く

し続けます。

喜びを実現していくことに最善を尽くします。

事業内容

技術を通して社会に貢献する 綜研化学グループの5つの技術



5つの製品群

粘着剤

液晶テレビ、自動車、家電、壁紙、ガラスフィルムなど、幅広い産業分野の製品に使用されています。約300品種のラインナップを持ち、様々な用途に対応できる製品を用意しております。



微粉体

液晶テレビ、化粧品、バスタブ、キッチンカウンターなどの生活用品から、インキ、塗料、フィルムなどの材料にまで使用され、粒子サイズもミクロンからナノの世界へと広がり、その用途・機能はますます拡大しています。



特殊機能材

印刷インキ、包装材料から、液晶やプラズマテレビ用の電子材料まで、時代のニーズに適應した素材作りをしています。



加工製品

液晶やプラズマテレビ用の光学用特殊テープから建築・建材向け構造用接着テープまで、幅広い用途で製品に付加価値を与えています。



装置システム

綜研テクニクスが担当しており、自社ノウハウを基本とするバッチプラントのコンサルティングから建設・メンテナンスに至る業務に、最適なソリューションを提供しています。



身の周りの製品



●薄型テレビ

ディスプレイ材料の貼り合わせに粘着剤、光拡散板に微粉体がそれぞれ利用されています。



●家電製品

シートスイッチ部分の防滴防塵に加工製品(両面テープ)、電子回路形成工程で特殊機能材がそれぞれ利用されています。



●携帯電話

液晶部分に粘着剤や微粉体が、電子回路形成工程で特殊機能材がそれぞれ利用されています。



●自動車

ドアの内装材の固定、外装品、各種部品の固定に粘着剤や加工製品(両面テープ)が利用されています。



●化粧品

添加剤として微粉体が利用されています。



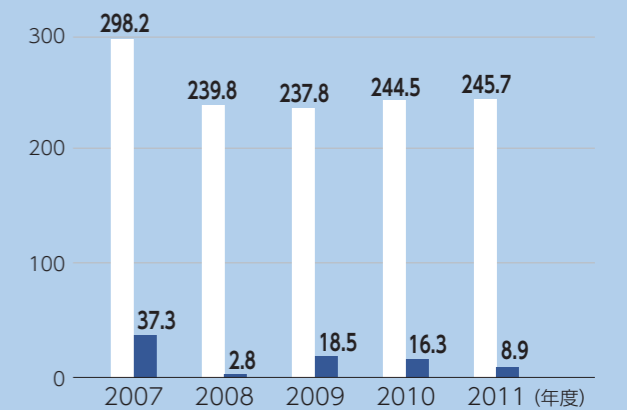
●住宅

建材の固定に加工製品(両面テープ)や粘着剤が利用されています。

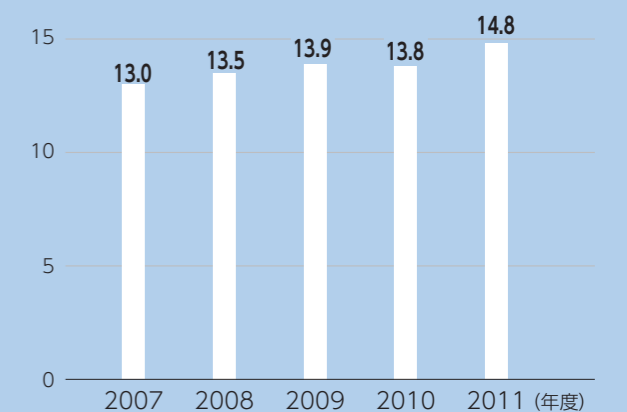
会社概要

商号 綜研化学株式会社
Soken Chemical & Engineering Co.,Ltd
創立 1948年9月2日
資本金 33億6,156万円
株式 JASDAQ上場(コードNo.4972)
売上高 連結：246億円
単体：157億円(2012年3月期)
従業員 連結：973名
単体：230名(2012年3月31日現在)

■売上高・経常利益 (億円)



■研究開発費 (億円)



地域に開かれた事業所を目指して

綜研化学の2つの国内事業所(所在地:埼玉県狭山市/静岡県御前崎市)では、地域に根ざし、開かれた事業所であるべく様々な取り組みを行っています。その一環として、本報告書においても、事業所内部や取り組み内容についてご紹介いたします。



狭山事業所 新事業棟(所在地:埼玉県狭山市)

国内事業所のご紹介

浜岡事業所
綜研化学グループ
国内最大の
生産・物流拠点



浜岡事業所
(所在地:静岡県御前崎市)

狭山事業所

2011年12月、新事業棟竣工

綜研化学グループは、今後成長が期待できる環境・エネルギー分野、ナノテクノロジー分野等をターゲットとして、ナノインプリント用モールド、有機太陽電池材料、電子ペーパー用粒子の新規事業化に注力しています。

新事業棟の活用により、これら新製品の開発・量産を進め、新規事業の早期立ち上げを目指しています。

～省エネを実現したクリーンルーム～

新事業棟内のクリーンルームは、「高クリーン環境」と「省エネ」を両立させた最新のクリーン環境を実現しており、夜間・休日等の無人時は、省エネ運転に切り替わって消費電力が削減される仕組みです。



事業所の取り組み①

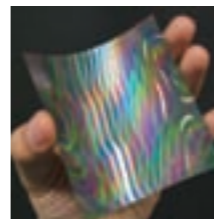
環境に優しい製品開発に向けて

綜研化学グループの 新規事業

省エネ製品の性能向上に役立つ ナノインプリント用モールド

近年、LED・有機EL・太陽電池など光を利用した省エネ製品にナノサイズの形状を施し、性能を向上させる開発が活発になっています。

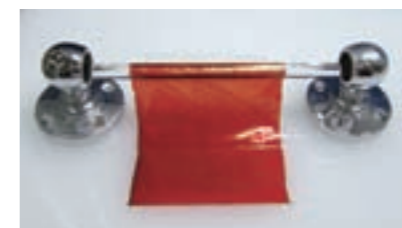
綜研化学グループでは、フィルムとニッケルを材料に、ナノサイズの形状を施すためのモールド(金型)を作製し、2011年度より販売を開始いたしました。



フィルム製モールド
[Flefilmo]

環境にやさしい次世代太陽電池 有機太陽電池材料

有機薄膜太陽電池の発電材料となるp型半導体ポリマーの工業化を進めています。次世代製品の有機系太陽電池は、シリコン系の既存製品に比べ、製造工程でCO₂の排出が削減できるなど、環境に優しい製品として期待されています。



有機薄膜太陽電池 発電層

省電力の薄型ディスプレイ ツイストボール型電子ペーパー

2011年に商品化したツイストボール型電子ペーパーは、世界でも綜研化学グループだけが持つオンリーワン商品です。軽量、省電力であることに加え、これまでの電子ペーパーと比較し、耐久性やカラー性能に優れています。



電子ペーパー大型時計

事業所の取り組み②

地域社会への貢献

地域の安全のために 消防団活動

浜岡事業所では、地域の消防団活動に参加した経験を持つ社員が多くいます。事業所としても、地域貢献と、地域における消防・防災体制の充実強化などのため、勤務時間中の社員の消防団活動に便宜を図るなど協力体制を整えています。

このような取り組みにより、静岡県御前崎市と牧之原市より2011年に消防団協力事業所として認定されました。



消防団活動内容

- 火災、事故あるいは災害などが発生した際の消防活動
- 災害救助等に必要技術の修練
- 防災啓蒙活動

消防団活動参加者インタビュー

地元御前崎市の消防団に2011年4月に入団し、2016年まで活動を継続し、1年休団後、副分団長として活動する予定です。消防団では、火災だけでなく、台風や地震の際も、見回りや救助活動を行います。昨年5回ほど出勤した際は勤務中ではなかったものの、いざ勤務中に非常事態が起こった場合は、消防団活動を優先するように会社でも協力体制が敷かれています。2012年6月にポンプ車の操作方法や礼式を競う査閲大会があり、夜間訓練に参加するため、交代勤務を早番にもらうなどの配慮もしてもらいました。訓練の成果が出て優勝することができたので、次の大会に向け、引き続き訓練に励みたいと思います。消防団は、厳しい規律のもと、体力的にもハードだったり、緊急出動があるなどの大変な面もありますが、自分の地域と家族を守ることに繋がる活動なので、やり甲斐を持って取り組んでいます。



浜岡綜研株式会社
製造部
鈴木 淳矢

2011年4月に入団し、2017年まで活動を予定しています。私が所属する牧之原市の消防団では、非常時の出動に備えて、頻繁にポンプ車からの放水や、ホースの担ぎ方などの訓練を実施しています。秋から冬にかけては、ポンプ車に乗って地域を回り、防火を呼びかける夜警を行なっています。夜警は、19時～24時と活動時間が長いので、会社に了承をもらい、夜警が終わり次第、遅れて夜間勤務につくこともあります。睡眠時間を削って活動時間にあてるなど大変な部分もありますが、災害時だけでなく、普段から地域の方たちが安心して暮らせるように頑張っています。



浜岡綜研株式会社
製造部
古川 義樹



(写真上) 狭山事業所研究棟内 展示コーナーのご紹介
(写真下) 狭山市長との記念撮影

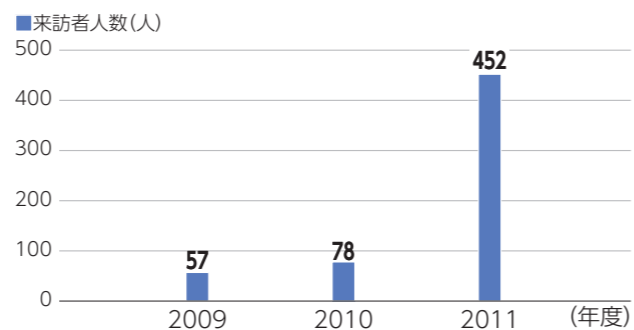
■ 事業所の取り組み② 地域社会への貢献

開かれた事業所であるために
見学会の実施

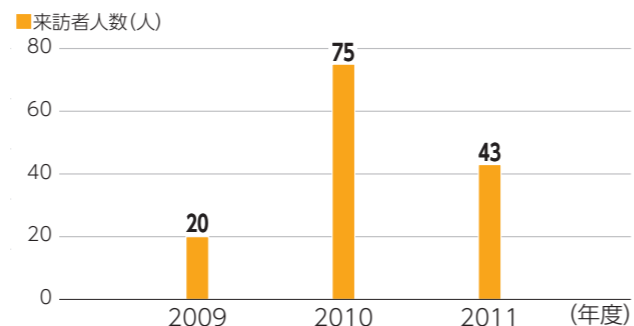
近隣住民の皆様、お取引先、学生、地元団体など幅広い方々を対象に、当事業所内部をご覧いただく見学会を実施しています。

参加者のご要望に応じて、建物内部、製造設備や環境配慮の取り組み例など、ご覧いただく内容をアレンジしています。狭山事業所では、2011年度に近隣住民の皆様を対象に見学会を実施するなどした結果、2010年度を大幅に上回る452人の方にご来所いただきました。今後も当社の事業活動についてご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

■ 狭山事業所 事業所見学者数の推移



■ 浜岡事業所 事業所見学者数の推移



見学会の取り組みについて

事業所来訪者の対応に際して大切にしていることは、来訪目的を正確に認識し、ご要望に叶うご案内をすることです。

より深く事業所について理解していただくために、施設や現場などを直接ご覧いただき、どなたにも理解していただける言葉を用いて説明するように心がけています。

特に地域に関係の深い皆様は、「どのような仕事をしている会社なのか」「何を製造しているのか」ということはもちろんのこと、環境や安全に関わる内容にも高い関心をお持ちです。

事業所近隣の皆様の願いである「安全で住み心地のよい町」を実現すべく、これからも地域の皆様との交流の機会を大切に、より信頼され、より愛される事業所を目指してまいります。



取締役副社長
執行役員
狭山事業所長
日向 芳明

見学会実施例のご紹介

2011年
4月9日 住民見学会(狭山事業所)

事業所近隣住民の皆様を対象にした見学会には、自治会を中心に52人の方にご参加いただきました。製造工場や研究施設をツアー形式でご覧いただき、施設や設備の役割から、製造工程、環境配慮設備などをご紹介いたしました。質疑応答では、緊急時の対応、有害物質の有無、排水処理対策、計画停電時の対応など、様々なご質問が寄せられ、また終了後アンケートでのご意見・ご感想などからも近隣住民皆様の事業所への関心の高さが伺え、今後の事業所のあり方について考える場となりました。



質疑応答の様子

見学会終了後
のアンケート
より
～抜粋～

- 近くに住んでいても、どんな会社なのか、全く知らなかったもので、今回見学できて良かった。風向きによって臭いが気になる時もありましたが、十分に配慮されていると知り安心した。
- 脱臭装置や現場の実作業なども見たかった。研究棟はキレイだったので、ぜひこのまま保持して欲しい。
- 騒音対策およびVOC*対策についてよく理解できた。今後も安全に万全を期して操業をお願いしたい。

*揮発性有機化合物

2011年
10月27日 環境対策に取り組む
地元企業の見学会(狭山事業所)

環境に対する知識を深めることを目的とした見学会。事業所内の環境対策設備などを中心にご見学いただきました。



触媒燃焼式脱臭装置の役割についてご紹介
(※設備の詳細 24P)

2011年
11月17日 御前崎市商工会 工場見学
(浜岡事業所)

御前崎市商工会主催による「さあ5S・改善活動しよう」セミナーの一環として、当社の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)と「改善活動」の取り組み事例をご見学いただきました。



各所に掲示している改善活動内容のご紹介

2012年
5月30日 狭山市長視察(狭山事業所)

狭山市民を代表して仲川狭山市長にご視察いただき、近隣への環境配慮対策や今後の事業展開についてご説明いたしました。仲川市長からは、当事業所が地域社会にもたらす役割の大きさについて改めて認識した、とのコメントをいただきました。



展示品に興味深くご覧になる仲川市長(上)、新事業棟に設置したクリーンルーム見学の様子(右)

事業所見学ご希望の方は、
以下までお問い合わせください

狭山事業所

総務グループ 見学会担当者宛
〒350-1320
埼玉県狭山市広瀬東1-13-1
TEL:(04)2954-3261(代) FAX:(04)2954-4085

浜岡事業所

総務グループ 見学会担当者宛
〒437-1612
静岡県御前崎市池新田8665-1
TEL:(0537)85-3331(代) FAX:(0537)85-5540

コーポレート・ガバナンス

当社は適切な企業統治の推進・徹底を図ることにより、企業としての社会的責任を果たし、関係する皆様から信頼していただけるよう努めていくことを基本方針としております。

■ コーポレート・ガバナンス体制の概要

2002年5月に制定した企業倫理綱領において「当社は、法令等を遵守し、社会的規範や良識に基づいて行動する」ことを

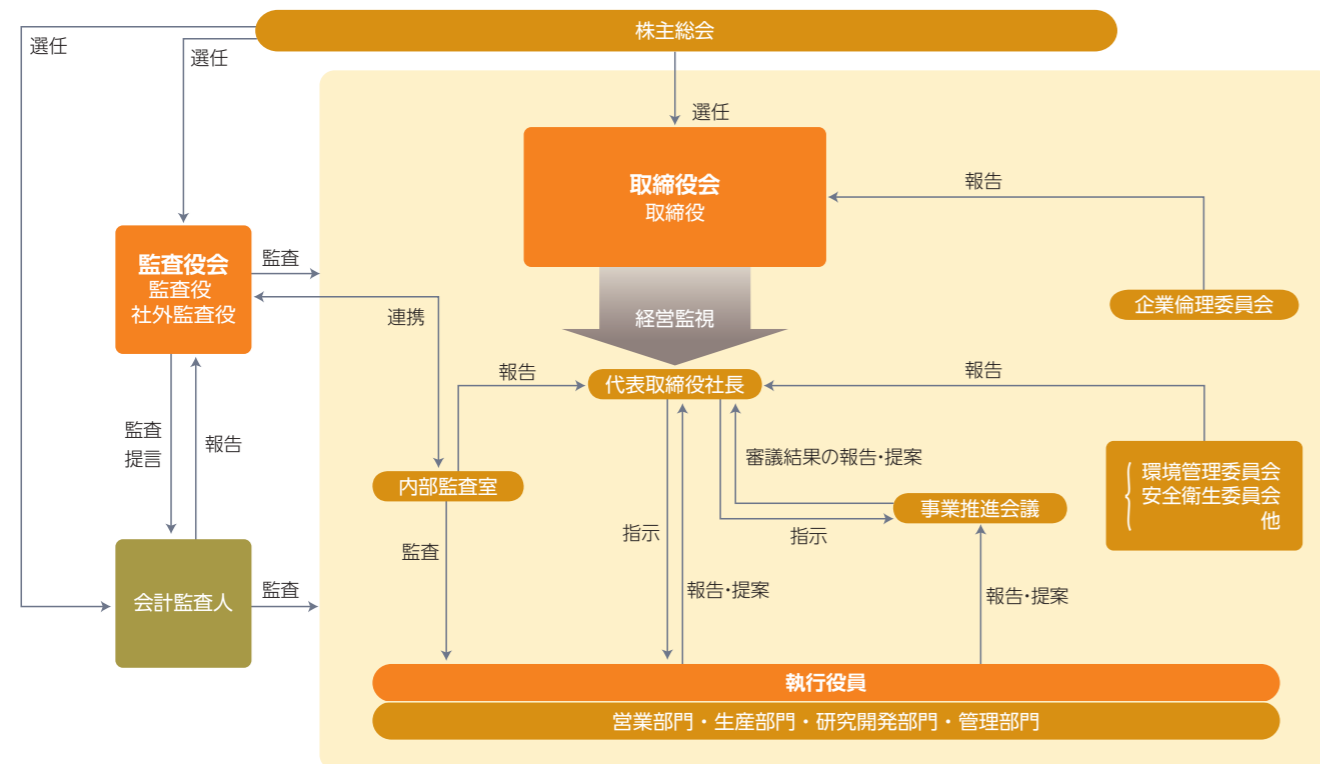
定め、的確なガバナンス体制の構築を目指しております。

- 業務執行につきましては月1回の定例取締役会のほか、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しております。
また、経営の重要事項を審議し、経営意思決定の迅速化・的確化を図るため、執行役員を構成員とした事業推進会議を月1回以上開催しております。
- 内部監査室(専任2名)は、内部統制の妥当性を監視することを目的として、法令・規程類の遵守状況、リスク管理状況、会社財産の保全状況、業務活動の効率性を確認するために、日常の業務遂行に関し、全部門及び関係会社を対象に各種社内規程の遵守状況に関する監査並びに業務監査を計画的に実施し、そ

の結果をトップマネジメントに報告すると同時に、被監査部門に対し、必要な改善事項の指摘・指導を行い、その後の進捗状況をフォローしております。

- 法令遵守体制の充実・強化のため、2002年5月に企業倫理綱領及び倫理行動基準を制定し、関係会社を含め適切な運用と実践に努めるとともに、2003年4月に企業倫理委員会を設置し、社長を委員長として定期的に会議を開催し、日常的な法令遵守状況のチェック、取締役会への報告、改善のための提言を行っております。
- 環境管理委員会、安全衛生委員会等それぞれの分野で委員会をもち、側面からコーポレート・ガバナンスの充実に寄与しております。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

内部統制システム構築の基本方針を2006年5月15日の取締役会において「業務の適正を確保するための体制の整備」として決議し、法令遵守体制の強化、リスクマネジメントの推進、規程の見直し等の体制の整備・充実に取り組むとともに、その進展や状況に応じて、取締役会の決議により必要な改定を行っており、現在は、以下の9項目に取り組んでおります。

取り組み項目

- 1 取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- 2 取締役の職務の執行に関する情報の保存及び管理に関する体制
- 3 リスク管理を適正に推進するための体制
- 4 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制
- 5 当社及びその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 6 財務報告の信頼性を確保するための体制
- 7 監査役の適正監査を確保するための体制
- 8 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 9 反社会的勢力排除に向けた体制

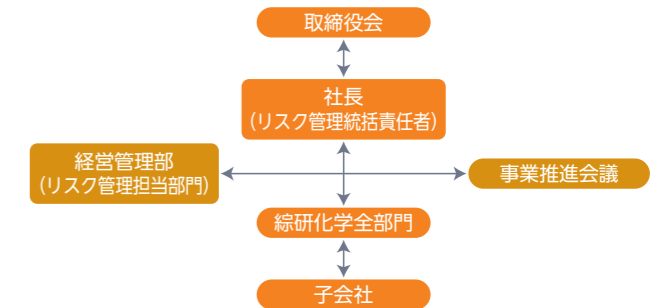
リスクマネジメント

取締役は以下の各号に掲げるリスクに対する適切な管理体制を整備し、リスク管理規程を制定するとともに、その運用・評価・改善に努めております。

- 1 法令・規制等に違反することにより信用を失墜し、または損害を蒙るリスク
- 2 災害や事故、情報システムの機能停止等により、業務執行が阻害されるリスク
- 3 事業所等における安全衛生・環境保全に問題が生じるリスク
- 4 生産立地、品質保証、技術導入、研究開発等における目論見・基準を下回るリスク
- 5 為替・金利動向などの経済環境の変化、財務活動に伴って損失を蒙るリスク
- 6 競争環境、他社との連携、合併・買収、事業統合、海外事業、資材調達、債務保証等各種契約に係る経営上のリスク
- 7 その他取締役会が極めて重大と判断するリスク

なお、重大な危機が生じた場合には社長を本部長とする対策本部を設置し、対応を行うこととしております。

■ リスク管理体制図



■ コンプライアンス

企業倫理綱領

法令遵守体制の基礎として、企業倫理綱領および倫理行動基準を定め、その遵守徹底を図るため、2005年より全役職員がCSRカードを携帯し、あわせて啓発教育を実施しています。また、社長を委員長とする企業倫理委員会を開催し、日常的な法令遵守状況をチェックするとともに、改善のために提言を行い、取締役会にその状況を報告しています。

企業倫理綱領

- 1 社員一人ひとりの自律性を深め、倫理性の高い優れた企業をめざす。
- 2 法令等を遵守し社会的規範や良識に基づいて行動する。
- 3 すべての事業活動において自由競争のルールに従い、公正な取引を行う。
- 4 適時適切な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努める。
- 5 あらゆる反社会的勢力及び団体からの不法・不当な要求には応じず、一切の関係を持たない。
- 6 海外においても、その土地の文化や慣習を尊重する。
- 7 お互いの人格・人権を尊重し、不当な差別のない職場環境を確保する。
- 8 地球環境保全と安全確保に努め、豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

ヘルプライン制度

企業倫理ヘルプライン規程に基づき、従業員等からの通報または相談により、法令違反・不正行為等による不祥事の早期発見、予防および再発防止のためのヘルプライン制度を確立し、運用しています。通報者本人の保護や匿名性を確保するなどして、自浄能力の維持・向上に努めています。



お客様・取引先の皆様とともに

綜研化学グループは、ケミカルズ製品の研究・開発のノウハウと、製品化・量産化するためのエンジニアリングの技術を活かし、お客様のニーズに高いレベルで迅速に対応することを目指しています。また、製品開発の過程の中で「お客様との信頼関係を大切に」することを信念としています。

品質方針

- 1 顧客満足の絶えざる向上を目指し、品質マネジメントシステムの実践とその有効性を継続的に点検し、顧客の期待に応える魅力ある製品とサービスを提供します。
- 2 法令・規制要求事項の遵守は当然のこととして、顧客の品質に対する要求事項を満たすことが、顧客からの信頼を確保する上で重要であるとの認識を社内に徹底します。
- 3 品質方針と整合した品質目標を設定し、その見直しを含めた目標管理の仕組みを作り、実践します。

◆ スローガン 「高品質で拓け未来を！」 ◆

お客様との信頼関係を保つために～東日本大震災の経験を経て～

お客様との信頼関係を保つには、日頃のコミュニケーションはもちろんのこと、困ったとき、場合によっては非常事態が発生した際に、いかにお客様に対応できるかということが重要です。

昨年、東日本大震災により当社の原料サプライヤーが被災し、製品原料のいくつかの調達に不安定になりました。代替原料を速やかに検討し、また、中国のグループ会社を通じて原料を輸入するなどして、お客様への供給に支障をきたすことを最小限に食い止めました。また、東京電力管内の狭山事業所では、節電、計画停電により生産が制限されましたが、中部電力管内の浜岡事業所に生産をシフトするなど機動性のある対応で凌ぎました。

今回の震災を期に、大地震災害を特定リスクとし、それによる被害を想定し、早い復旧計画とリスク回避策を検討して、お客様にできるだけ迷惑をかけないような体制をつくり始めています。幸い当社は、国内2カ所、海外には中国、東南アジアに製造拠点がありますので、カバーし合うことができると考えています。



取締役
執行役員
池田 裕治

展示会出展

新規事業製品を中心に積極的な展示会出展を行い、製品のPRをするとともに、お客様や来場者の方々との交流を図っています。

綜研化学・綜研テクニクス共同出展 「INCHEM TOKYO 2011プラントショー」



2011年11月16日～18日 東京ビッグサイト

彩の国 ビジネスアリーナ2012



2012年1月26日・27日 さいたまスーパーアリーナ

株主・投資家の皆様とともに

綜研化学グループは、経営理念に「株主の皆様からの共感を実現していくこと」を掲げ、適時的確な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努めています。

IR活動

経営の透明性を高め、企業の説明責任を果たすため、各種IRツールを通じて、株主・投資家の皆様へ情報をお届けしています。Webサイトでは迅速な情報開示に努め、直接株主・投資家の皆様とお会いする場として、株主総会・株主懇談会を開催しています。また株主の皆様には、中間・期末の年2回、ビジネスレポートをお届けしています。

投資家・アナリスト向けには、決算説明会を開催し、経営トップが決算概要および業績予想についてご説明しています。なお、決算説明会の配付資料（説明資料・FACTBOOK）はWebサイトで公開しています。



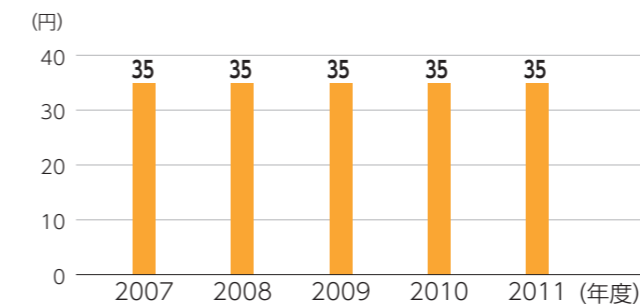
第63回株主総会
約100名の株主様にご出席いただきました。

利益配分

株主に対する利益還元を重要政策の一つと考えております。海外展開による事業拡大を進めるとともに、技術革新に対応した設備投資および研究開発投資を行い、新製品・新技術の開発・量産化に努め、会社の競争力を維持・強化し、収益力の向上、財務体質の強化を図りながら、配当水準の向上と安定化に努めることを基本方針としております。

2011年度の利益配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、安定的な配当を行うことが適切と考え、前期配当と同額の1株当たり35円といたしました。

1株当たり配当金推移



株主懇談会

毎年株主総会后に、株主懇談会を開催しています。当社技術や製品を身近に感じていただけるよう、会場に製品やポスターを展示して、社員がご説明しています。2011年度は、綜研化学グループの製品が暮らしの中でどのように使われているかを表わした特大ポスターを制作し、新規事業製品とともに展示しました。



展示品説明を通じた、社員と株主の皆様との交流（左）、新規事業展示コーナー（上）



「暮らしを変えるSoken」ポスター

事業報告書

製品や海外拠点など、最新のトピックスをご紹介する特集記事と、事業活動の概況を掲載しています。表紙には、障がい者ライブラリー「アートビリティ*」の作品を掲載しています。

*アートビリティ
障がい者アート専門の芸術ライブラリー。作品使用料は作者に還元され、自立のための援助に充てられています。

<特集記事例>

- モバイル機器の進化を支える当社製品 (第64期上期)



従業員とともに

経営理念に定める「働く喜びの実現」を達成するために、誰もが“働きやすい”と実感できる職場を目指し、様々な施策を展開しています。

育児・介護のための両立支援施策

綜研化学では、ワークライフバランスの向上を目指し、2011年8月に「次世代育成支援のための行動計画」を策定しました。これは、仕事と家庭の両立を可能にして、働きやすい職場環境

をつくることによって、社員が十分に能力を発揮できるようにするためのものです。

綜研化学の行動計画 計画期間(第1期) 2011年8月1日～2013年7月31日までの2年間

目標1. 効率的な仕事、付加価値の高い仕事への改善で総労働時間を削減する



対策

- 長時間労働防止にむけて時間外労働のマネジメント強化
- 月間時間外労働実績・中間時の状況を部門へ周知
- ノー残業デーの実施に向け検討
- 業務のあり方や進め方の改善に全社的活動を活用
- 有給休暇取得促進のために労使で協議
- 有給休暇計画表など計画的取得促進策の策定

目標2. 子を持つまたは要介護者を持つ社員が働きやすい職場環境をつくる



対策

- 社内報で育児休業・介護休業制度を周知
- 妊娠中や休業復帰後の女性従業員が相談できる窓口を設置
- 子の看護休暇は小学校卒業まで取得可
- 介護費用に対する融資制度の充実

目標1における労働時間削減に向けて、残業実績の公開や、有給休暇取得を促進しています。当社の2011年度の有給取得日数は8.5日、取得率48%でした。まずは、有給取得率50%を目指して取り組んでいきます。

目標2を実現するために、男女ともに子育てや介護をしながら働き続けられるように、育児休業規程・介護休業規程を改定しました。子の看護休暇は、法律を上回り、小学校卒業までの子供を対象とし、半日単位での取得も可能としています。

社内報に行動計画の解説や関連規程を掲載し、内容の周知と理解を呼びかけています。



育児休業取得者の声

2009年10月に娘を出産し、1年間育児休業を取得して、復帰しました。共働きである上に核家族の我が家は、家事や子育ての時間に余裕が持てる育児短時間勤務制度*を日一杯活用しており、とても助かっています。育休中は、製造グループに所属する3交替勤務の夫とも一緒に過ごす時間を多く持つことができ、夫婦共に子供と密に接することができました。浜岡事業所には女性社員が17名おり、内6名が産休・育休取得後復帰(予定含む)しています。これから結婚出産するであろう20代前半の女性社員が半数以上おりますが、これらの制度を利用しやすい環境が整っていると思います。



浜岡綜研株式会社
生産管理部 物流グループ
岸本 希

*育児短時間勤務制度
1日の標準就業時間を6時間に短縮した勤務

教育制度

各種制度やセミナーで社員のスキルアップをバックアップしています。

社内専門家制度

技術革新や事業革新の推進役となる人材の育成を目指し、会社が時間的・費用的支援を実施

職種別や階層別の研修やセミナーを実施

【セミナー例】 ● コミュニケーション研修、マーケティング入門セミナー

社員の能力向上につながる教育研修に対し、「費用補助プログラム」を実施

【費用補助例】 ● 国内・海外の大学・大学院等への進学
● 外国語(英語・中国語・韓国語・タイ語)の習得のためのe-ラーニング費用、テキスト購入費

社内表彰制度と社内発明報奨金制度

年に一度、権利化につながる発明の創出、業績貢献、業務改善などの功績を残した社員を表彰しています。また若手技術者の知的財産マインドの熟成を図ることを目的に、社内発明報奨金制度を設けています。



発明考案賞を受賞した
ナノインプリント用モールドの
開発担当者

リフレッシュ休暇制度

永年勤続者が勤続の節目毎に仕事を離れ、家族とともに心身のリフレッシュを図り、次の飛躍への一助とすることを目的に、勤続満10年、20年、30年に到達した社員を対象にリフレッシュ休暇を付与し、旅行券を支給しています。



永年勤続者への
表彰状授与式
(綜研テクニックス)

フレックスタイム制度

勤務時間は、フレックスタイム制度を導入しています(製造現場での交代制勤務除く)。就業時間は1日7時間30分、コアタイムを午前10時～午後3時としています。また、研究開発に従事する従業員には一部裁量労働制を導入しています。このような勤務制度により、従業員の業務や事情に合わせたフレキシブルな勤務を可能にしています。

社内専門家制度 利用者の声

知的財産を取り扱う部署に所属しており、昨今重要性が増している知的財産の知識・業務スキルを更に向上させる必要があると強く感じたため、社内専門家制度に応募いたしました。社内審査を経て、2011年4月より東京理科大学専門職大学院 知的財産戦略専攻で、知的財産分野の授業を履修しています。手厚く補助をしてくれる会社や、平日夜間の授業に快く送り出してくれる同僚には、今後業務を通じて貢献していきたいと思っています。また、大学院通学のため帰宅が遅くなっても、いつも暖かく応援してくれる家族にも日々感謝しています。



知財・研究管理室
井脇 俊

発明考案賞 受賞者の声

入社してからNIP製品プロジェクトで開発業務に従事し、2011年度に発明考案賞を受賞しました。思うように開発が進まない事もありましたが、苦労した分だけ今回の受賞はとても嬉しいです。これを励みに、さらなる新技術を開発して、画期的な製品を世に送り出していきたいです。



NIP製品プロジェクト
宮澤 幸大

社員クラブ活動

社員の親睦を図るための行事やクラブ活動を行う「綜和会」があり、会社が活動資金を支給しています。クラブは、野球部・バスケット部・アウトドアクラブ・海釣り部など12の団体があり、若手から役員まで多くの社員が参加しています。



アウトドア部



ソフトボール大会

地域の皆様とともに

綜研化学グループは、事業を通じた社会貢献と、事業所が所在する地域との積極的な交流に努めています。

理科教室の開催

子供たちに楽しく科学に親しんでもらうことを目的に、当社技術を用いて身近な道具を作って、実験を行う理科教室を2008年度から開催しています。2011年度は、事業所が所在する埼玉県狭山市内15校から集まった46人の小学生を対象に、液晶ディスプレイに使われる偏光フィルムを使った万華鏡作り挑戦してもらいました。偏光フィルムの特性によって、光が様々に変化して見えるこの万華鏡作りをとおり、偏光フィルムの構造や光の特性について学んでもらいました。完成した万華鏡を覗いた子供たちからは、歓声があがり、笑顔溢れる教室となりました。



当社社員が楽しく丁寧に工作の仕方を教えました。



出来上がった万華鏡を嬉しそうに覗きこむ子供たち。

地域交流

地域に密着した企業を目指し、地域のボランティア活動やイベントに積極的に参加しています。

七夕まつりクリーンボランティア

毎年新入社員と狭山事業所社員が中心となって、入間川七夕まつりや入間川クリーン作戦などに参加し、美化活動・ごみ収集を行っています。



地域交流を兼ねて行った入間川七夕まつり清掃活動にて

ドラゴンボート大会

浜岡事業所の有志がチームを編成し、地元で高い人気を集める静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯に、昨年4回目となる出場をいたしました。



若手からベテラン社員まで一致団結して試合に臨みました

駅伝大会

第7回御前崎市駅伝大会に浜岡事業所駅伝部が出場。社員14人が2チームに分かれて出場し、7区間計19.4キロを力走しました。



多くの社員が応援に駆けつけました

インターンシップ制度

社会貢献活動の一環として、国内・海外問わず積極的にインターンシップ生を受け入れています。2011年度は国内大学、海外（韓国・ベトナム）から計6人の研修生を受け入れました。社会人としての基礎知識習得にとどまらない実践的な研修を実施し、研修生から「将来の希望職種（海外営業）を明確にすることができた。ぜひ日本企業で働いてみたい」（韓国からのインターンシップ生）、「研究室と現場の違いを肌で感じることができ、密度の濃い時間が過ごせた」（化学系大学院生）といった感想が寄せられました。韓国からのインターンシップ生を講師に韓国語講座を開催したり、インターンシップ後も交流を続けるなどして、社員も刺激を受ける機会となっています。



インターンシップ生の成果発表会



狭山事業所で開催した韓国語教室の様



講師として明るく受講生を励ます韓国の漢陽大学生の趙さん

防災訓練

東日本大震災の経験を踏まえ、これまで以上に非常事態を綿密に想定した訓練を実施しています。

本社

社員の居住エリア毎に帰宅班を編成、班員を確認して、帰宅困難時に備えました。なお、会社で帰宅班毎に帰宅支援セットを準備しています。



狭山事業所

消防署指導のもと、事業所に設置した消火ポンプを利用した訓練などを実施。

浜岡事業所

東海地震による津波を想定した工場高層階への避難や、実践的な消火訓練などを実施。



表彰

平成23年度知財功労賞受賞

経済産業省 特許庁より「平成23年度知財功労賞」において、「経済産業大臣表彰（特許活用優良企業）」を受賞しました。知財戦略室（現 知財・研究管理室）が、海外も含めた特許調査・戦略的な出願を積極的に展開するとともに、研究開発員への階層別知財研修を実施していること、また、トップマネジメントが直接知財活動に関わるなどの積極的な特許活用の取り組みが評価され、受賞に至りました。



優良運転者表彰

警視庁目白警察署長より、綜研テクニックスの社員が、平素から交通法規を遵守した安全運転を励行し、交通事故防止に努めてきた功績が称えられ、感謝状が授与されました。

受賞者の声

18歳で免許を取得し、これまでほぼ毎日のように、自家用車もしくは会社の営業車を運転しています。特別なことをしている訳ではないのですが、運転中は「急がない・急かさない・イライラしない」ということを心がけ、無事故無違反で今日までくることができました。これからも、20年30年40年と違反と事故の無いよう、継続して安全運転に努めたいと思います。



綜研テクニックス株式会社
メンテナンス・サービス部
磯川 直樹

環境負荷低減のための活動

綜研化学グループでは、「環境保全を指向しつつ社会に役立つ革新的製品を提供する」という経営理念のもとに自主的、積極的に環境への配慮を考えた企業活動を行っています。

環境方針

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企業として、粘着剤、微粉体、特殊機能材等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品および装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境に配慮した企業活動を行い、環境保全に努め、社会に貢献します。

基本方針

- 1 全員参加のもとに環境保全活動を進め、継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
- 2 関連する法令等の要求事項を順守するとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

行動指針

- 1 事業活動や製品が環境に与える影響を評価し、環境改善の目的および目標の設定と、見直しを含め環境改善を進めます。
- 2 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R(リデュース、リユース、リサイクル)による「資源の循環」に取り組みます。
- 3 化学物質による汚染の防止など、環境リスクの低減に努めます。
- 4 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2008年6月25日
綜研化学株式会社



環境計画

綜研化学グループでは、2005年に「第一次環境中期計画」、2008年に「第二次環境中期計画」を策定し、環境保全活動を推進してきました。2011年度はこれまでの結果を受けて、「第三次環境中期計画」を策定し環境保全活動を更に推進する予定でしたが、東日本大震災の影響により事業環境が不透明であったため、2011年度の環境計画は単年度計画としました。

2011年度環境計画

2011年度環境計画の重要課題3項目のうち、「化学物質による汚染防止および環境リスクの低減」は計画通りに実施することができましたが、「環境配慮型製品売上高比率向上の推進」、「地球温暖化防止の推進」は未達成に終わりました。

第三次環境中期計画

第二次環境中期計画、2011年度環境計画の結果を踏まえ、更に改善を推進するために「第三次環境中期計画」の策定を進めています。

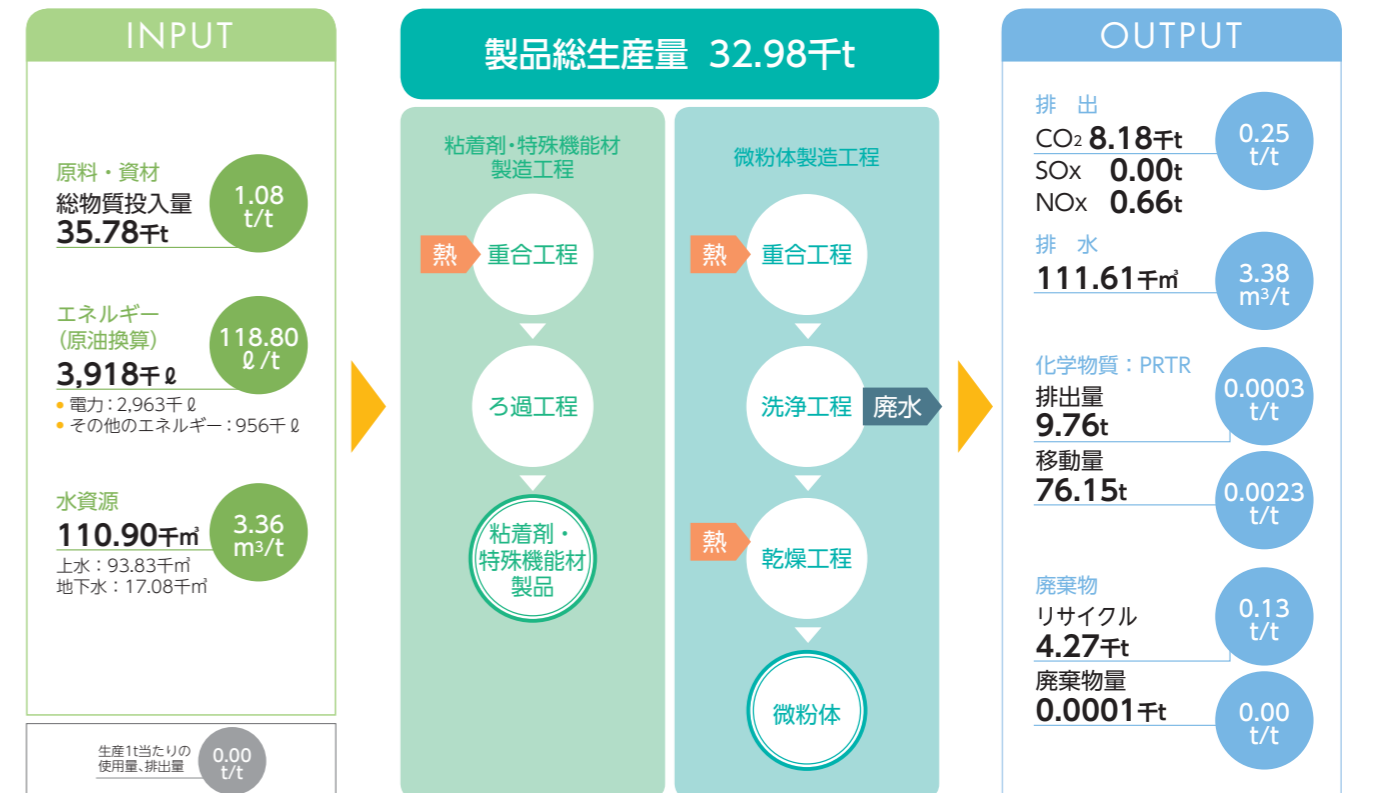
2011年度環境計画	2011年度目標	2011年度実績	評価
環境配慮型製品売上高比率向上の推進	売上高比率 14.3%	売上高比率 13.6%	×
地球温暖化防止の推進	環境効率*4.3	環境効率*4.0	×
化学物質による汚染防止 および環境リスクの低減	臭気・VOC発生源対策の実施	(狭山) 触媒燃焼式脱臭装置の導入 生産設備の洗浄効率向上など (浜岡) ドラム缶自動洗浄設備の建設など	○

*環境効率

$$\text{環境効率} = \frac{\text{生産高} \cdots \text{グループ内生産量 (単位 t)}}{\text{環境負荷} \cdots \text{CO}_2\text{排出量: (単位 tCO}_2\text{)}} \quad \text{評価: } \bigcirc\text{達成} \quad \times\text{未達成}$$

2011年度マテリアルフロー

綜研化学グループでは、事業活動による環境負荷を正確に知ることが環境保全活動の基本になると考えています。原材料やエネルギーなどのインプットと製品や廃棄物などのアウトプットの数量を把握し、これらを基に更なる環境負荷低減を目指した活動を行います。



環境マネジメントシステム

綜研化学グループでは、国際標準規格であるISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、本社、狭山、浜岡の各サイトで環境負荷低減を目的とした様々な取り組みを行っております。

統括環境管理責任者より

2011年度は2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で事業環境の先行きが見えなかったため、予定していた3ヶ年環境計画(第3次環境中期計画)を単年度計画へ急遽切り替え、波乱の幕開けとなりました。リーマンショックの影響を引きずりながら震災の影響(特に狭山サイトでの計画停電)や急激な円高による日本経済の不振の中、綜研化学グループでは約3億9千万円の環境保全投資を行い、環境負荷低減に努めてまいりました。その結果CO₂排出量の削減は実現できましたが、生産量の減少により「環境効率」は低い値にとどまらざるを得ませんでした。

今後は既存事業に対して更なる環境負荷低減努力を継続するとともに、環境保全につながる用途に使われる新規事業製品の展開を通して、環境保全に配慮した活動を行ってまいります。

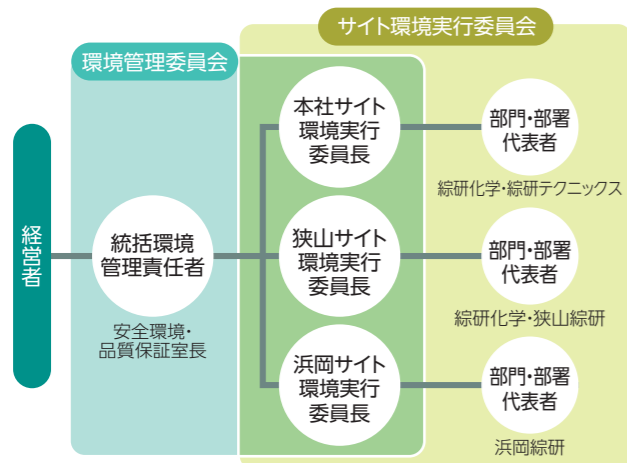


安全環境・品質保証室長
(統括環境管理責任者)
山岸 雅幸

環境マネジメントシステムの推進体制

環境マネジメントシステム経営者のもと、統括環境管理責任者がシステムの管理を行い、具体的な活動はグループの事業拠点である本社、狭山、浜岡の3サイトを単位として、それぞれの特性に応じた活動を進めています。また、綜研化学グループとしての環境保全活動の方向性の調整、サイト相互の情報交換を図るため、各サイトの代表者で構成する環境管理委員会を設置しています。

環境マネジメントシステム推進体制図



環境保全投資

2011年度は狭山サイトで省エネルギーおよび臭気対策として触媒燃焼式脱臭装置の導入、浜岡サイトでドラム缶再生利用の促進および揮発性有機化合物による環境汚染対策としてドラム缶自動洗浄設備の建設など、環境保全に綜研化学グループで約3億9千万円を投資しました。

環境苦情*発生および改善状況

2011年度は7月に狭山サイトで近隣の方より騒音に関する指摘を受けました。既に対策を実施し、ご指摘いただいた方に対策が有効であることを確認していただきました。

その他、環境苦情は発生しませんでした。

*環境苦情

地域にお住まいの方、お客様、お取引様、行政などからの環境に関する改善要求を「環境苦情」といいます。

著しい環境側面*の管理状況

著しい環境側面として特定している項目は、狭山サイト3件、浜岡サイト1件の計4件です。これらは運用手順を定めて管理しています。

*著しい環境側面

事業活動により環境に変化を与える原因となるもの、または原因となる可能性があるものを「環境側面」といい、この「環境側面」の中で環境に与える変化が特に大きいと判断したものを「著しい環境側面」といいます。

	管理項目	管理状況
狭山サイト	1 揮発性有機化合物の放出	粘着剤・特殊機能材製造時に反応設備から発生する揮発性有機化合物の蒸気が大気に拡散することを防止するために、揮発性有機化合物の蒸気を凝縮捕集する設備を設置しています。
	2 微粉体製造時の廃水排出	微粉体製造に伴う廃水を保管するタンクから廃水が溢れ出すことを防止するために、タンクの操作手順書を制定し管理しています。
	3 触媒燃焼式脱臭装置からの排気ガスの排出	加工製品製造時に発生する揮発性有機化合物による臭気を低減するために、揮発性有機化合物を燃焼処理する設備を設置しています。この装置を正常に稼働させるために操作手順を定め運用を行っています。
浜岡サイト	1 静電気放電による火災	多量の引火性液体を使用しているため、静電気放電による火災が発生する可能性があります。このような火災を防止するために静電気放電を予防する作業手順を定め運用を行っています。

環境配慮型製品

綜研化学グループでは、自らの事業で発生する環境負荷の低減を図るだけでなく、環境に配慮した製品の開発と提供に積極的に取り組んでいます。

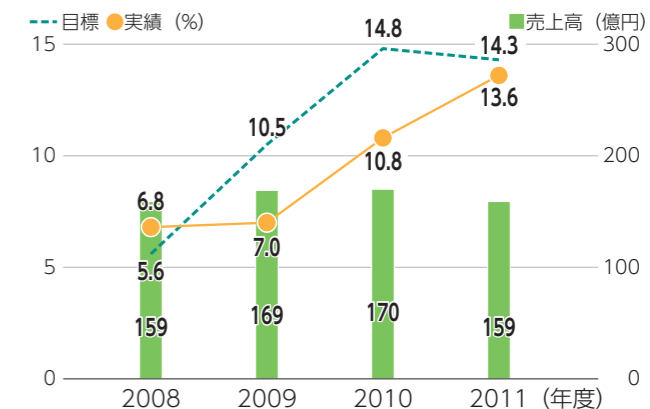
環境配慮型製品*売上高比率

全ケミカルズ製品の売上高に対する環境配慮型製品の売上高比率は、2011年度は13.6%で2010年度の10.8%より向上しましたが、目標の14.3%に若干及びませんでした。これまでの取り組みにより環境配慮型製品のラインナップは充実してきており、お客様への認知度も向上してきたと感じています。今後も環境保全を推進するために環境配慮型製品の更なる売上拡大を図ってまいります。

*環境配慮型製品

地球温暖化防止、環境汚染防止、環境リスク低減、資源循環、自然エネルギー・非枯渇資源の活用など地球環境の保全および社会の持続的発展に貢献する一連の製品群です。

環境配慮型製品売上高比率の目標と実績



環境配慮型製品の代表例

粘着剤 「エコ・シリーズ」

エコ・シリーズは有機溶剤による環境負荷の削減を目的とした製品で、以下のタイプがあります。

- ①「シロップタイプ」: 有機溶剤を使用していないUV重合型粘着剤。
 - ②「エマルジョンタイプ」: 有機溶剤を使用していない水系の粘着剤。
 - ③「ノン・トルエンタイプ」: 揮発性有機化合物規制を考慮した有機溶剤型粘着剤。
 - ④「高不揮発分タイプ」: 従来品より有機溶剤量を低減させた有機溶剤型粘着剤。
- これらにより、製造工程での環境負荷を低減させるとともに、環境に優しい粘着加工製品の開発・製造をお客様にご提案し、ご使用いただいております。



加工製品 「JETテープ®」

JETテープ®は有機溶剤を使用していない粘着剤(エコ・シリーズの「シロップタイプ」)を原材料とした粘着テープです。環境に優しい製品であるだけでなく、様々な接着面に強力な接着力を示すほか、熱伝導性や防水性など用途に応じた多様な機能を持たせることができるため、様々な分野でご使用いただいております。



特殊機能材 「アクトフロー®」

アクトフロー®は有機溶剤を使用していない、環境に優しい機能性材料であり、素材として各種材料に「混ぜる」ことで、様々な機能性を発現させられます。分子設計技術、分子量制御技術により機能を付与させているため、光学フィルム・塗料・接着剤・プラスチックなどの改質に用いられ、多様な用途でご使用いただいております。



地球温暖化防止

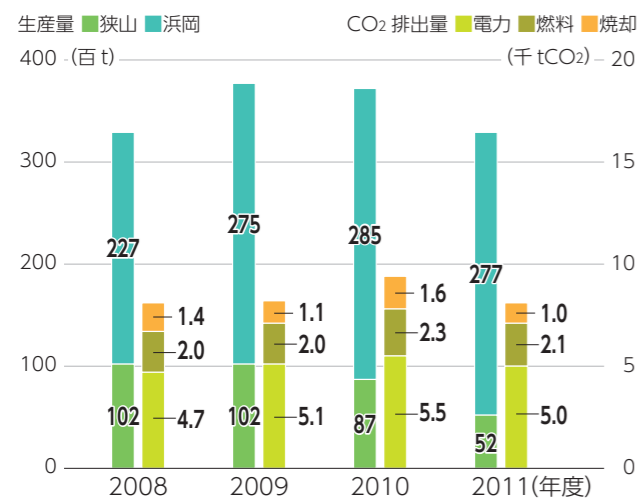
綜研化学グループでは、設備の運用改善や更新、廃棄物排出量の削減などでCO₂排出量の削減を進めています。

CO₂排出量削減のための取り組み

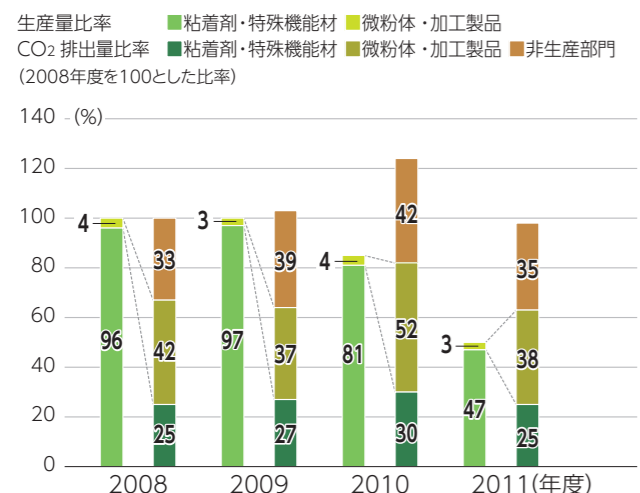
2011年度は東日本大震災の影響で37年ぶりに電力使用制限令が発動され、東京電力管内の狭山サイトが夏季使用最大電力ピークカットの対象になりました。これを受けてグループ全体の節電意識も高まり、電力使用量の大きい生産設備や研究設備の改善、運用方法の見直しなどにより電力使用によるCO₂排出量は2010年度比7.0%削減できました。また、設備更新などの省エネルギー対策や廃棄物減量を行い、電力使用以外によるCO₂排出量も削減できました。

これらの対策の結果、グループ全体でのCO₂排出量は2010年度比10.6%削減できました。

生産量とCO₂排出量



狭山サイトの生産量比率とCO₂排出量比率

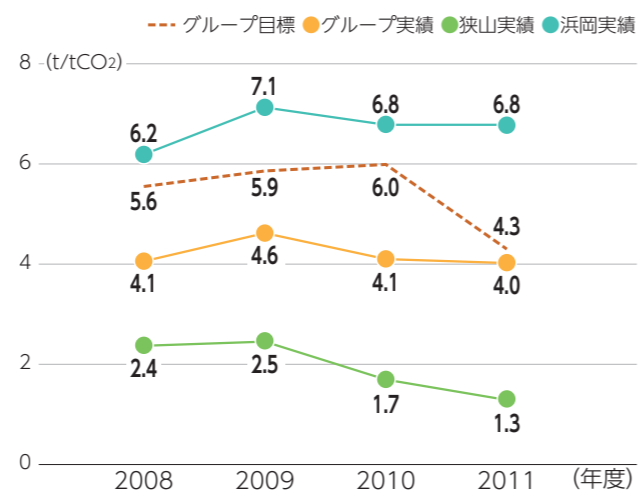


環境指標結果

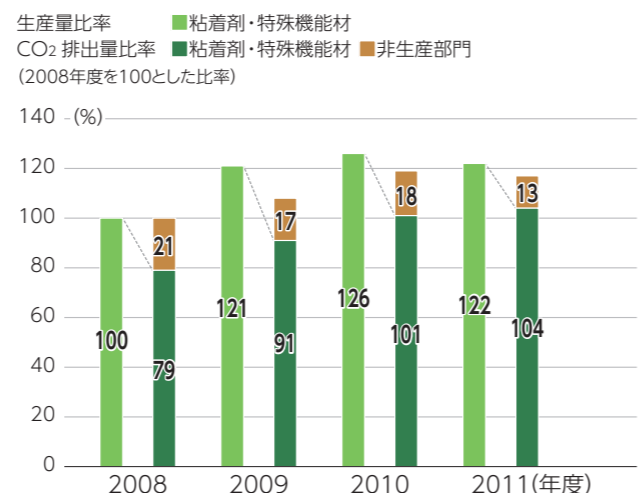
綜研化学グループの環境指標である環境効率¹は、2011年度は4.0で目標の4.3に達せず、2010年度実績の4.1にも届きませんでした。これは経済状況により生産量が2010年度比11.3%減少したためです。

サイト別の環境効率は、狭山サイトは1.3、浜岡サイトは6.8でした。狭山サイトの効率が低い理由は、狭山サイトが綜研化学グループのマザー工場として研究開発機能を備えており、非生産部門で多くのエネルギーを使用していること、多くのエネルギーを使用する微粉体および加工製品を生産していること、更に粘着剤、特殊機能材の量産品番の浜岡サイトへの移管により、微粉体および加工製品生産比率が上昇したことによるものです。

環境効率の目標と実績



浜岡サイトの生産量比率とCO₂排出量比率



化学物質による汚染防止および環境リスク低減

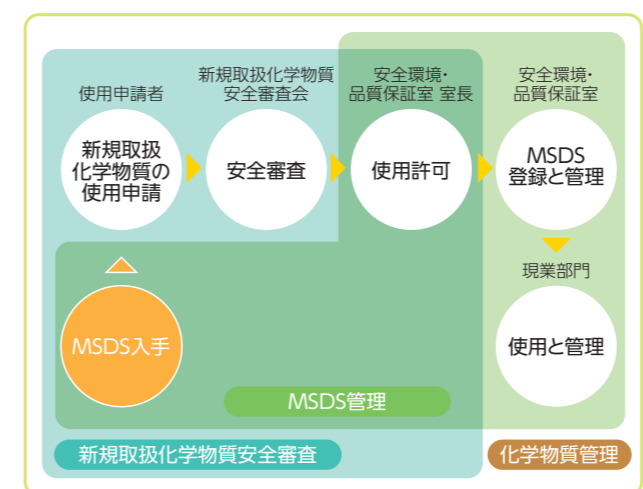
綜研化学グループでは、取り扱う化学物質による環境汚染や事業活動に伴う騒音や振動による環境リスクを抑制するための対策を実施しています。

化学物質管理

化審法^{*1}、化管法^{*2}、毒劇法^{*3}など法規制への対応に加え、安全に事業活動を行うために下記の化学物質管理体制を構築し、使用する化学物質のMSDS（化学物質等安全データシート）等の情報を基に化学物質の安全性を確認しています。

- *1 化審法 化学物質の審査及び製造等の規制に係わる法律
- *2 化管法 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に係わる法律
- *3 毒劇法 毒物及び劇物取締法

化学物質管理体制図



揮発性有機化合物・臭気対策

揮発性有機化合物に起因する環境汚染を防ぐために発生源の密閉化や排気脱臭の効率化を行いました。特に住宅地が隣接している狭山サイトでは生産設備から発生する排気臭に細心の注意が必要のため「狭山事業所臭気対策会議」を発足させ、脱臭装置を触媒燃焼式に更新するなどの臭気対策を進めています。

MSDS（化学物質等安全データシート）の提供

製品を安全にご使用いただくため、全製品のMSDSを作成し、お客様に提供しています。

今後、化学物質規制が強化されると予想されるため、法令改正などへの対応を迅速に行いMSDSの記載内容を更新し、正確な情報をお客様に提供できるようにMSDS自動作成システムの導入を進めています。

PRTR*届出実績

綜研化学グループが2011年度に取り扱ったPRTR対象物質は21種で、総取扱量は12,070tでした。PRTR対象物質で取扱量が多かった物質はアクリル酸ノルマルブチルで、取扱量は4,799t、大気への排出量は0.002t、移動量は0.149tでした。アクリル酸ノルマルブチルは反応工程で重合体となるため、大気への排出量、移動量が非常に少なくなっています。次いで取扱量が多い物質はトルエンで、取扱量は3,901t、大気への排出量は5.5t、移動量は52.3tでした。

*PRTR 化学物質排出移動量届出制度

騒音・振動対策

騒音規制法、振動規制法の順守に加え、低騒音設備への更新、騒音発生作業の見直し、騒音発生源の遮蔽などの対策を行っています。また、サイト内で工事を行う場合は環境影響評価を行い騒音・振動対策を実施しております。更に住宅地が隣接している狭山サイトでは夜間騒音の自主基準値を設定し、積極的な騒音対策を行っています。

2011年度の取り組み事例

事務所の夏期節電対策（本社サイト）

本社サイトでは事務業務のみを行っているため、他サイトと比べエネルギー消費量は少ないですが、積極的な省エネルギー活動に取り組んでいます。エアコンの消費電力を削減するため窓へのブラインド設置やこまめな温度調整などを行い、7月から9月の総使用電力量を2010年度比30%削減することができました。



廃棄物削減・資源循環の推進

綜研化学グループでは、リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の3Rについても積極的に取り組み、廃棄物の削減を推進しています。

■ 廃棄物削減・資源循環の取り組み

綜研化学グループでは2009年度に廃棄物の再資源化率*1 99%以上(ゼロエミッション*2)を達成し、2011年度は2010年度に引き続き99.9%を維持しております。

廃棄物の総発生量は2010年度比15.4%減となり生産量の減少率11.3%*3を上回っていることから、廃溶剤の蒸留回収推進など廃棄物削減の取り組みの成果が現れたと考えています。

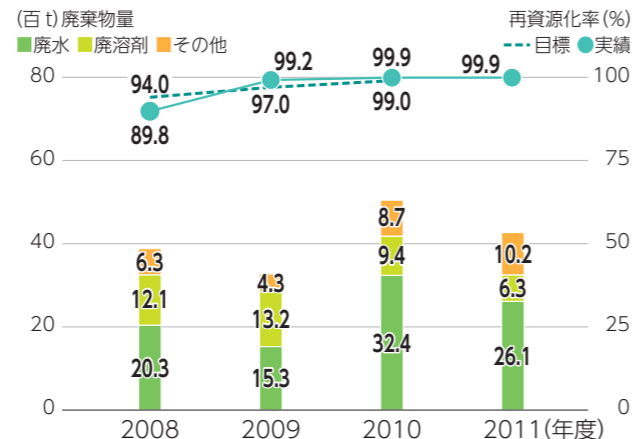
廃棄物の内訳は61.2%が微粉体生産に伴う廃水、14.8%が粘着剤・特殊機能材生産に伴う廃溶剤です。

また、綜研化学グループでは主要製品の容器に使用されるドラム缶を回収することでお客様の廃棄物も削減するよう努めています。2011年度は回収したドラム缶(再生利用ドラム缶)を自動で洗浄する設備を建設し、効率的に再生利用できるようになりました。

今後は微粉体生産プロセスの見直しを行い廃水の削減に取り組むと共に、廃溶剤の蒸留回収やドラム缶の回収・再生を更に推進します。

■ 廃棄物量と再資源化率

※ 2011年度の再資源化率は維持管理項目としているため、目標を設定していません。



*1 再資源化率
 綜研化学グループの再資源化率の指標
 $再資源化率(\%) = \frac{\text{社内リサイクル量}(t) + \text{社外リサイクル量}(t) \times 1}{\text{廃棄物の総発生量}(t)} \times 100$
 ※1 マテリアルリサイクル量+サーマルリサイクル量
 ※2 社外へ持ち出す廃棄物量+有価物量+社内リサイクル量

*2 ゼロエミッション
 綜研化学グループでは「ゼロエミッション」の定義を、「事業活動で生じた全廃棄物のうち、最終的に埋め立て処分となる廃棄物を1%以下とすること」としています。

*3 生産量については、P21「地球温暖化防止」の「生産量とCO₂排出量」のグラフをご参照ください。

2011年度の取り組み事例

研究設備の節電対策 (狭山サイト)

綜研化学グループの商品開発には、恒温恒湿の環境(特定の温度、湿度の環境)が必要です。この恒温恒湿の環境を維持するための空調システムを改善し、電力を40%削減することができました。



生産設備の洗浄効率向上 (浜岡サイト)

綜研化学グループでは多品種の製品を製造しており、製品種を換える度に生産設備の洗浄を行う必要があります。この洗浄工程にも多くのエネルギーを使用していましたが、設備を改良することで洗浄時間を約20%短縮することができ、省エネルギーの効果がありません。また、作業員の有機溶剤暴露時間が大幅に減少し、作業環境の改善にもなりました。



サイトデータ

狭山サイト

- 事業所設置 1961年
- 敷地面積 28,795㎡
- 所在地 埼玉県狭山市広瀬東1丁目13番1号
- 主な事業内容 粘着剤、微粉体、特殊機能材、加工製品の開発、製造およびプラント用装置の開発



執行役員
 プロセス開発室長
 (狭山サイト環境実行委員長)
 山本 一己

狭山サイトの周囲は住宅が建ち並び、他サイトに比べ、より一層環境に配慮した事業活動が求められております。また、綜研化学グループに於けるマザー工場として環境配慮を意識した商品開発、製造を行うよう心掛けています。

2011年度は、夏期に電力使用制限令が発動され「最大需要電力の昨年度比15%以上削減」という義務に対し19%削減を達成することができました。また、節電の効果として7月から9月の総使用電力量は昨年度比16%削減することができました。今後も生産設備・研究開発設備の更なる電力削減に努めていきます。

電力以外では工場排気の脱臭装置を見直しました。従来のガス燃焼式から触媒燃焼式に更新したことにより燃焼用ガス消費量を約1/10に削減することができました。

その他の環境保全対策として、臭気発生源の密閉化などの臭気対策や、防音壁の設置、騒音発生源装置の改善などの騒音対策も積極的に行っております。

廃棄物に関しては昨年同様に再資源化率99%以上を維持しております。

2012年度も環境配慮型製品の開発に努め、綜研化学グループのマザー工場として率先して電力量・CO₂排出量の削減、環境に配慮した事業活動に邁進いたします。



狭山サイト全景

2011年度の取り組み事例

触媒燃焼式脱臭装置の設置 (狭山サイト)

加工製品製造時に有機溶剤を揮発させる必要があり臭気が発生します。この臭気を低減させるために有機溶剤の蒸気に都市ガスを混合し燃焼させていましたが、触媒を用い有機溶剤の蒸気を化学的に燃焼促進させる脱臭装置(触媒燃焼式脱臭装置)に更新しました。

触媒燃焼式脱臭装置では都市ガスの使用量を従来の1/10に削減することができ、また、稼働時の騒音も大幅に低減することができました。

現時点で臭気は従来設備と同等ですが、運転条件を調整することで大幅に低減できる見込みです。



サイトデータ

浜岡サイト

- 事業所設置 1992年
- 敷地面積 39,189㎡
- 所在地 静岡県御前崎市池新田8665番1号
- 主な事業内容 粘着剤、特殊機能材の製造および微粉体中間体の製造



浜岡総研株式会社
取締役 工場長
(浜岡サイト環境実行委員長)
関口 勉

浜岡サイトはグループの量産工場・物流拠点としてお客様に高品質な粘着剤・特殊機能材製品を提供しています。サイトの立地は工業団地ですが、南500メートル程にある遠州灘の白浜が国の天然記念物「御前崎のウミガメおよびその産卵地」に指定されており、自然に恵まれた場所です。このような環境のもと、環境保全に留意した事業活動を行っています。

浜岡サイトでは3Rを推進し、廃棄物削減・省エネルギーに取り組んでいます。リデュース：原料受け入れタンクを設置し、原料をドラム荷姿購入からタンクローリー購入に変更し、運搬作業の合理化、運搬燃料を削減しました。リユース：当社製品の主要容器である再生利用ドラム（オープンドラムにポリエチレン内袋を装着し再利用できるドラム缶）の自動洗浄設備を備えた建物を建設し、3月から稼働しました。リサイクル：製造設備の洗浄に使用する溶剤のストックタンクを細分化することにより、設備の汚れ度合いに合わせて使用できるようになり、また、汚れた溶剤を蒸留回収し再利用するようにもしました。これにより廃液の排出量を14%削減しました。

今後も廃棄物削減と省エネルギーを推進し、環境に優しいサイトを目指します。



浜岡サイト全景

2011年度の取り組み事例

ドラム缶自動洗浄設備の建設 (浜岡サイト)

綜研化学グループの製品の多くはドラム缶に充填してお客様にお届けしています。これまでも資源循環の取り組みの一環として製品使用後のドラム缶をお客様より回収させていただき再生利用していましたが、効率的に再生するためにドラム缶の自動洗浄設備を建設しました。

従来の洗浄方法では使用する有機溶剤の臭気が問題となっていました。臭気対策も行い改善しました。また、効率的に洗浄ができるため、使用する有機溶剤量を30%削減することもできました。



第三者意見

綜研化学

「2012 社会・環境報告書を読んで」

■ トップメッセージ

逢坂社長の真摯な安全に取り組む有言実行のメッセージは、大変良いと思います。安全を維持し続けるためにはトップの熱意が何よりも重要であることから、これまでの“安全は全ての業務に優先する”としながらもトップメッセージで触れるまでもないとして推進されてきた安全文化向上の諸施策の効果が、倍することを期待します。

■ 特集：地域に開かれた事業所を目指して

1. 浜岡事業所が行っている社員の地域の消防団活動に便宜を図る施策は、社員が安全に主体的に取り組む姿勢を維持し続けることに資することに加え、地域の安全のためにも貢献でき、素晴らしい活動と評価します。
2. 狭山事業所が力を入れた事業所見学会などにより、前年に比べ5.8倍の452人の見学者があったことは、同事業所を理解して頂けるよい施策として本見学会の定着化を期待します。

■ 社会的側面

1. 従業員とともに
働きやすい職場作りの施策としての従業員のワークライフバランスへの取り組みに注目しました。特に2011年8月から始まった育児・介護のための両立支援制度の定着に期待します。
2. 理科教室の発展
創業60周年の2008年から「科学の力で子ども達に感動を」の方針のもとで始まった出前の理科教室の取り組みが、狭山市内の小学校を対象とした狭山市地域子ども教室の毎年恒例の教室にまでに発展しており、今後の活動に期待します。

■ 環境的側面

重点施策の1つでデータを取り始めた2005年以降目標の未達が続いているが、グループ目標値とその実績値との乖離が最も小さくなった「環境効率（地球温暖化防止策の経営指標）」に関するこれからの活動に期待します。

■ 努めて欲しいこと

どんなことをしたかについて多く記載されており、それぞれ顔がみえ、相応の成果／貢献がみられますが、PDCAサイクルの構成になっている記述が少ないと感じます。「(前年度の課題⇒) 今年度の目標⇒実績⇒今年度の課題⇒次年度の目標」のサイクルの中で、今年度は何をどこまで実現し、項目によってはそれが社会にどう貢献したか、が伝わるような記述を期待します。市民の理解を促すために、また従業員のやる気を増す上でも重要な要素と思っています。



NPOリスクセンス研究会
副理事長
中田 邦臣

元 三菱化学㈱理事、元 鹿島動力㈱社長。名古屋大学、静岡大学、熊本大学、お茶の水女子大学等の非常勤講師を歴任し、現在も東京農工大学、東京都市大学で企業に於けるリスク管理に関する講義を担当。

第三者意見を受けて

綜研化学グループは、ステークホルダーの皆様からの信頼とご期待にお応えすべく、独自の製品を提供し社会に貢献していくとともに、その大前提として安全確保、環境保全に努め、地域貢献活動、コーポレート・ガバナンスの推進等に積極的に取り組んでおります。2011年度は、東日本大震災、原子力発電所の事故を期に、当社グループといたしましても、安全確保、環境保全は勿論のこと、これらの取り組みについて積極的に情報を発信し、地域社会の皆様にも事業活動についてご理解いただけるよう努めていくことの重要性を再認識いたしました。

これらの取り組みにつきましては、従来、主に社会・環境報告書を通じて情報発信を行ってまいりましたが、これに加え、2011年度より事業所近隣の皆様を対象とした事業所見学会を行う等、より積極的な情報発信に努めております。企業としての社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆様のご期待にお応えするために、今回のご指摘を踏まえ、これまでの取り組みの更なる質の向上とより一層の情報発信に努めてまいります。



取締役
執行役員
御手洗 寿雄